

「新時代に対応した高等学校改革推進事業（普通科改革支援事業）」

学際領域学科

令和5年度研究開発成果物
(1年次)

北海道岩見沢東高等学校

目 次

1	研究開発イメージ図	P 1
2	岩見沢市内新設校「i スクール」プラン	P 2
3	岩見沢市内新設校普通科学際領域学科の周知	P 3
4	ロジックモデル	P 4
5	コンソーシアム概略図	P 5
6	コンソーシアム設置要領	P 6
7	岩見沢東高校「総合的な探究の時間」総合計画	P 8
8	「GANTO BASIS」「GANTO PROGRESS」「GANTO PRAIDE」年間計画	P 9
9	GANTO ゼミ	P 10
10	海外探究研修	
	(1) 「台湾研修(1 学年)」	P 24
	(2) 「オーストラリア研修(2 学年)」	P 27
11	One Night Dialogue 高大連携プログラム (関西学院大学、島根県)	P 29

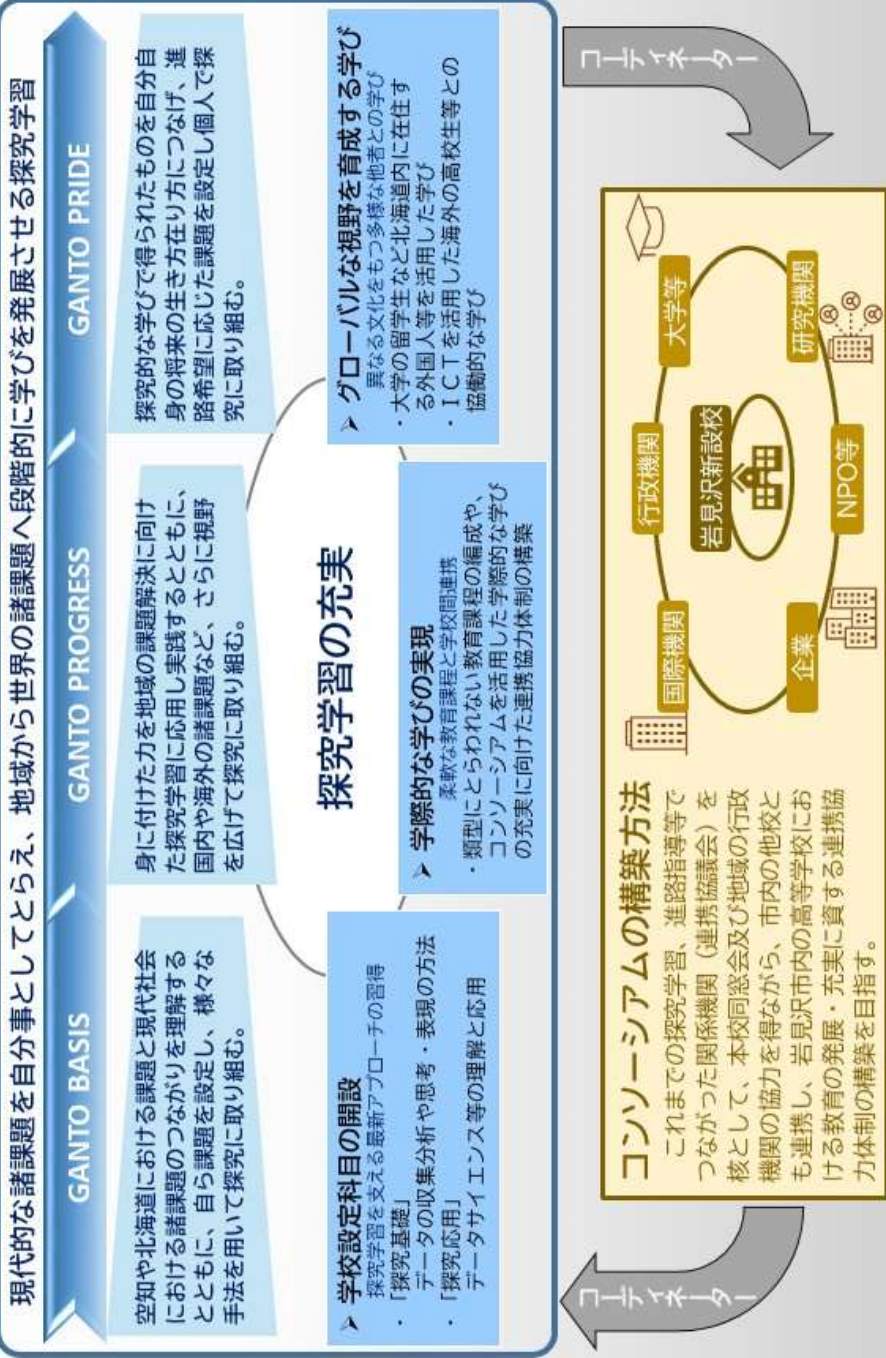
管理機関名【北海道教育委員会】

令和5年度 新時代に対応した高等学校改革推進事業（普通科改革支援事業）

【北海道岩見沢東高等学校】学際領域学科（令和7年度設置）

目的

- 外部の機関等の協力のもと学際的、複合的な最先端の学問分野の知見に基づく探究的な学びに取り組むことにより、予測困難なこれからの社会の持続・発展に寄与する知識、技能、態度を身に付けた生徒を育成する。
- 総合的な探究の時間や学校設定科目を核としたカリキュラムマネジメント及び教育プログラムの開発に取り組むことにより、地域の期待に応える高校づくりを進めるとともに、本道における普通科新学校校のモデルとなる。



令和7年
統合新設校
開校

我が国や国際社会の問題や課題を発見・解決し、
新たな価値を創造できる生徒を育成する
魅力ある新学科の開設

特色・魅力ある教育の概要

2 岩見沢市内新設校「iスクール」プラン



「iスクールプラン」とは、岩見沢新設校のコンセプトとして、岩見沢(iwamizawa)の頭文字「i」を用いて、3つのキーワードで3年間の学びを表現したものです。図の中に掲載してある各種行事等の写真は、現在の学校で行われているものとなりますが、これらの行事等を更に高めていくことを目標としています。

3 岩見沢市内新設校普通科学際領域学科の周知

地元で高い目標を実現

「i スクール」プラン

普通科新学科

新学科では、学校設定科目等での質の高い探究に取り組み、課題解決等の能力を身に付けます
— 難関大学等へ進学し将来社会で活躍する人を目指す —

普通科普通科

普通科では、総合的な探究の時間等で探究を深め、
思考力・判断力・表現力等を育みます
— 大学等への進学後や就職後に社会で活躍する人を目指す —

知識・技能の定着

授業とICT



ICTの活用

学校行事で
チームワークを



学校祭 行灯行列

自分の強みを
部局活動で発揮



野球部全校応援

探究学習

【総合的な探究の時間・キャリア教育】

地域を知る

1年次

地域に飛び出す

2年次

世界に飛び出す

3年次

地域巡検・JA農業体験

海外研修・グループ探究

志望する学問の課題研究

創造力と深い学び

【「探究基礎」「探究応用」】



イベント企画



卒論制作



データサイエンス学習



大学生との学び
(道教大岩見沢校等)

探究ルーム設置 (文科省DXハイスクール事業申請中)

コンソーシアム

岩見沢市 岩見沢市教育委員会 岩見沢商工会議所 岩見沢青年会議所 空知信用金庫
 北海道教育大学岩見沢校 北海道大学 北海道医療大学 弘前大学 吉田学園 北海道教育委員会
 大地会 (同窓会) エミプラスラボ ベネッセコーポレーション JICA 北海道国際交流・協力総合センター
 <岩見沢市内・南空知圏域の企業・団体・関係機関等：50事業所>

地元の生徒を支える
心強いサポーター

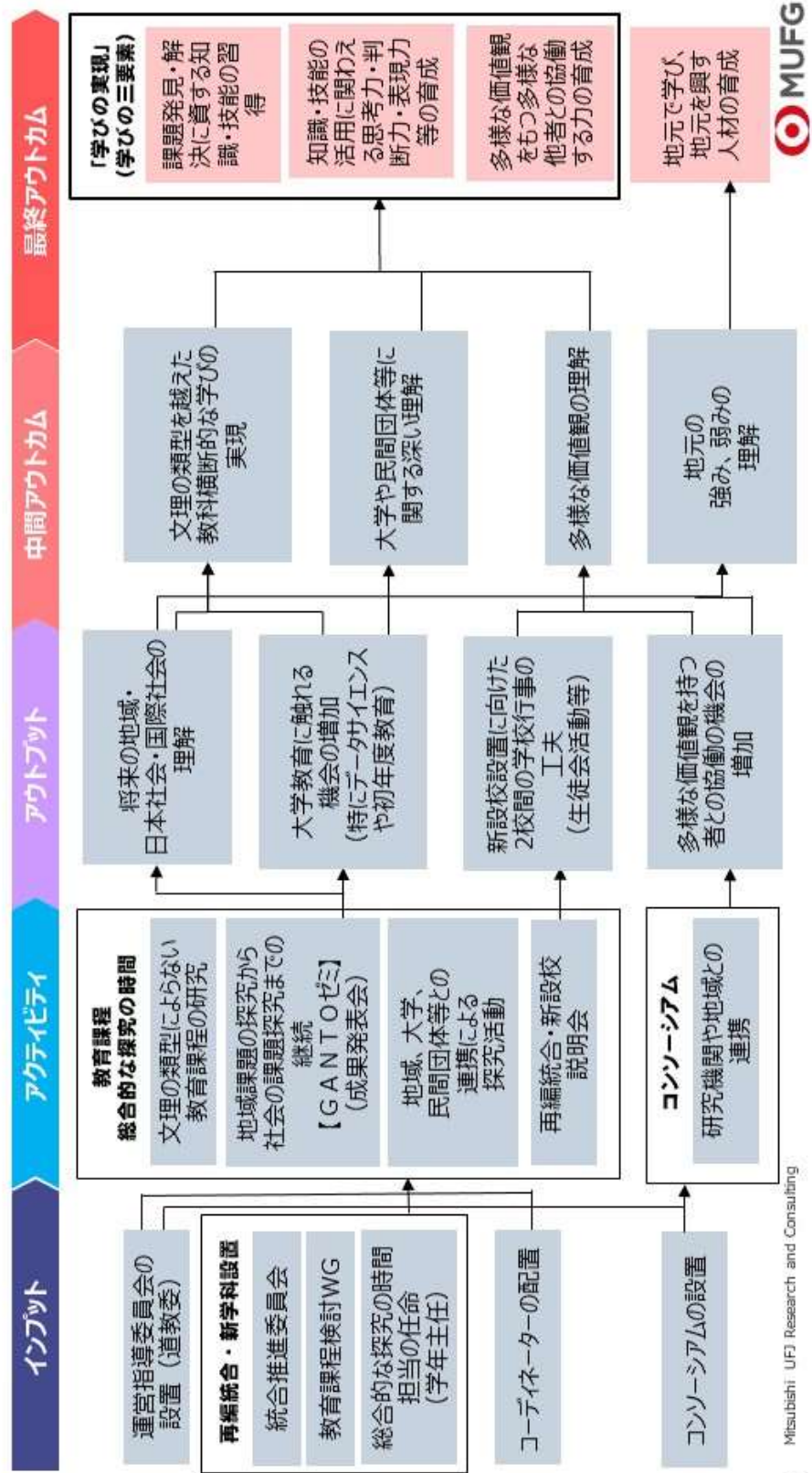


「新設校」のページにてご覧ください。

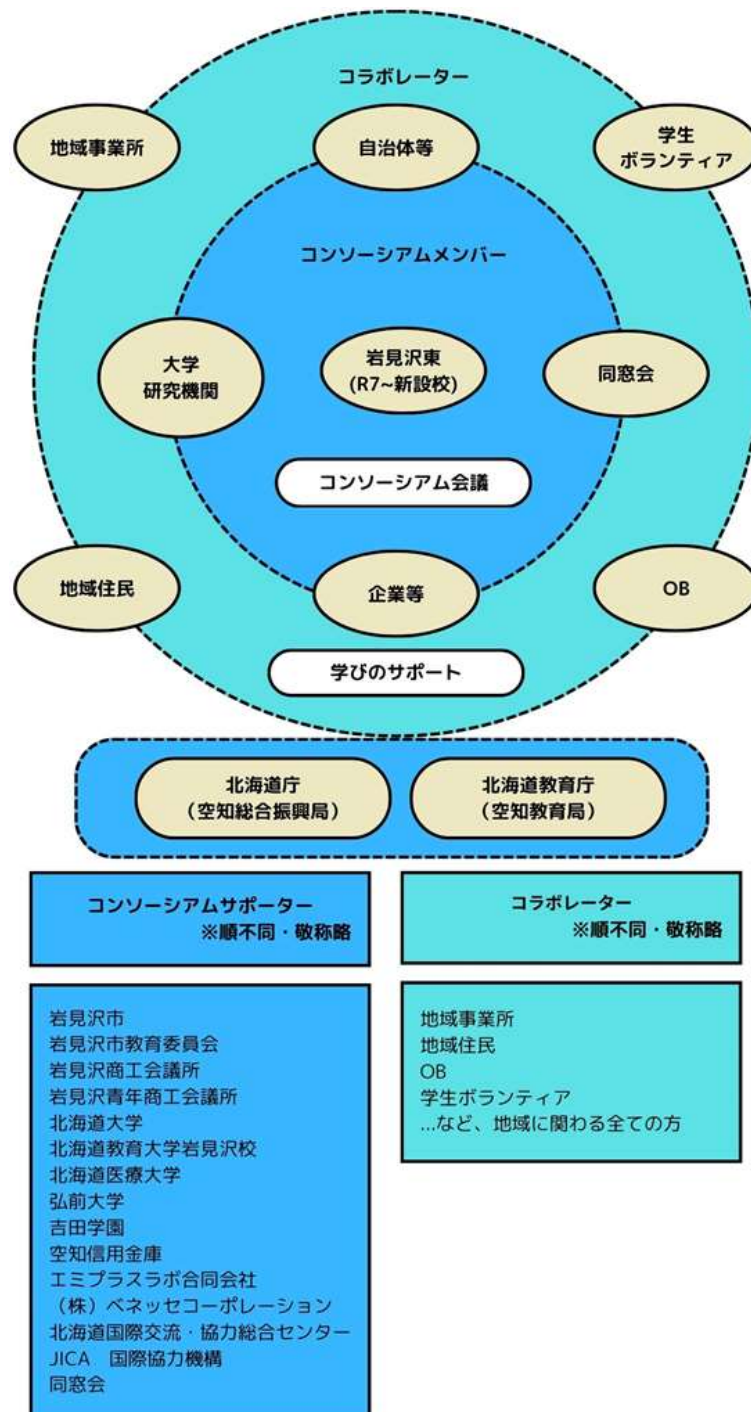
本校は、岩見沢東高校と岩見沢西高校が再編整備となり、令和7年度に普通科新学科（学際領域に関する学科）2学級、普通科4学級の新設校となります。本校が所在する南空知学区には、学際領域に関する学科がないため、新たな学科について、中学生や保護者等への理解の浸透に課題があります。

そのため、「普通科新学科とこれまでの普通科は何が違うの？」、「普通科新学科で行う学びの特徴は何？」といった疑問に答えるため、中学校訪問や本校の学校説明会等において上記リーフレットを活用し、普通科新学科で行う探究的な学びや、高等教育機関や研究機関、企業等とコンソーシアムを構築し、連携した学びの内容について、説明しています。

北海道岩見沢東高等学校



5 コンソーシアム概略図



本校のコンソーシアム「i コンソーシアム」は、メンバーを「コンソーシアムサポーター」と「コラボレーター」に分けて、生徒の探究的な学びを支援しています。

「コンソーシアムサポーター」とは、コンソーシアム会議に出席し、本校の探究的な学びの企画や運営に協力し、探究的な学びについて助言等をするメンバーです。

「コラボレーター」は、生徒が設定した探究テーマに基づき設定した問いを追究する際に、生徒の学びに伴走し、支えるメンバーとなっており、主に地域の民間企業等によって構成されています。

設置要領については、「6 コンソーシアム設置要領」に記載しています。

6 コンソーシアム設置要領

北海道岩見沢東高等学校

「新時代に対応した高等学校改革支援事業（普通科改革支援事業）」に係る

コンソーシアム設置要綱

（目的）

第1条

現代的な諸課題のうち、SDGsの実現やSociety5.0の到来に伴う諸課題に対応するため、学際的・複合的な学問分野や新たな学問領域に則した最先端の特色・魅力ある学びに重点おく本事業の目標達成のため、様々な教育資源を活用する学習機会の充実を図り、生徒の主体的に学ぶ意欲や興味・関心、さらには進路希望の実現に向けた学習ニーズに対応し、豊かな教養や専門的な知識や技能等を育成する教育課程の充実に加え、生徒の探究活動の発展、深化を目指し、本校と大学、研究機関、事業所等の地域社会との持続的で効果的な連携・協働体制を維持するコンソーシアムを構築する。

（名称）

第2条 本コンソーシアムの名称を「iスクールコンソーシアム」（仮称）とする。

（事業）

第3条 本コンソーシアムは、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 本事業推進に係る情報交換、意見交換
- (2) 本事業実施上の連携方策についての協議、検討
- (3) 探究的な学習の授業・行事等への支援
- (4) その他、コンソーシアムの目的達成に資する事業

（組織）

第4条 本コンソーシアムは次の構成員で組織する。

(1) 本校教職員

校長、教育コーディネーター並びに本事業に関わる教職員

(2) 外部構成員

大学、自治体、企業（事業所）、関連団体等

ただし、外部構成員は生徒の探究領域等に柔軟に対応するために、必要に応じて拡充を図るものとする。

第4条の2 各構成員の登録任期は令和6年4月1日から令和8年3月31日までとする。

第4条の3 各構成員はコンソーシアム登録承諾書の提出をもって本コンソーシアムに登録される。

2 登録を取り消そうとする場合は、校長宛に書面をもってその旨を届け出る。

（会議）

第5条 本コンソーシアムは次のとおり会議を開催するものとする。

- (1) 目的 本校教育活動の現状及び課題の共有を図り、更なる充実・発展に向けた指導・助言の場として開催することを目的とする。また、毎年度毎に教育活動の評価を行うこととする。
- (2) 出席者 本校教職員及び構成員とする。
- (3) 開催 年2回開催を原則とする。

(事務局)

第6条 本コンソーシアム事務局を北海道岩見沢東高等学校に置く。事務局は次により校正する。

- (1) 事務局長（教頭）
- (2) 岩見沢東高等学校教育コーディネーター
- (4) 会計（事務長）

2 事務局は、コンソーシアムの目的達成のため、次の業務を行う。

- (1) コンソーシアムの庶務に関すること。
- (2) コンソーシアム会議に関すること。
- (3) 生徒の探究的な学習に関すること。

(会計)

第6条の2 本コンソーシアムの運営に係る経費は「新時代に対応した高等学校改革支援事業（普通科改革支援事業）」予算からから支出する。会計業務は事務局が行う。

(その他)

第7条 本要綱の改訂は第4条の会議で行う。

(補足)

3 各構成員の業務

(1) 本校教職員・教育コーディネーター

- ア コンソーシアムの構築、運営及び会議の開催等に係る業務
- イ 生徒の探究的な学習の企画及び運営に係る業務
- ウ 生徒の探究活動に係る登録メンバーと生徒のマッチングに係る業務

(2) 外部構成員

- ア コンソーシアム会議等に参加し、学校の教育活動に対し助言する業務
- イ 探究活動成果発表会に出席し、生徒の活動へ助言を行う業務
- ウ 探究的な学習に係る出前講義等の学習支援
(生徒の進路活動を支援する学校行事等への参加を含む)
- エ 施設見学等の生徒の体験的学習を支援する業務
- オ 「総合的な探究の時間」に係る生徒の活動への一時的（または継続的）な指導及び助言する業務（オンラインでの実施を含む）
- カ メンバーが支援可能な学習活動に係る情報提供に係る業務
- キ 必要に応じ、探究活動成果発表会での生徒の活動へ指導・助言を行う業務。

(注) 各メンバーの業務については、メンバーの特性に応じて事務局から依頼するものであり、全ての業務を依頼するものではない。

7 岩見沢東高校「総合的な探究の時間」総合計画

「潜在能力（Capability ケイパビリティ）を掘り起こす」プログラム～井の中の蛙、大海に飛びだそう!!

○ プログラムの概要とねらい

北海道岩見沢東高等学校（以下、GANTO）の生徒の、心のエンジン駆動に必要なリソースは、「総合的な探究の時間」を軸とした教育活動により充填される「自信」である。北海道、特に本校が位置する空知地域における GANTO への期待は、スクールミッションでもある「我が国や国際社会の問題や課題を発見・解決し、新たな価値を創造できる生徒の育成」である。本プログラムは、“井の中の蛙”的な生徒に「潜在能力（Capability ケイパビリティ）を掘り起こす」ことで「自信」を持たせることをねらいとした「総合的な探究の時間」を軸にした教育プログラムである。

○ プログラムの流れと内容

充填される自信

我が国や国際社会の問題や課題を発見・解決し、新たな価値を創造できる生徒の育成

1 年次

2 年次

3 年次

井の中の蛙、
大海に飛び出せ!!

「GANTO BASIS」

地域(空知・北海道)を知る

「GANTO PROGRESS」

地域(空知・北海道)に飛び出す

「GANTO PRIDE」

日本・世界に飛び出す

地域で活躍している人材や、地域の外部機関からの知見の提供を得たり、地域(空知・北海道)理解のためのフィールドワークを行ったりする活動を通じて、2 年次に行う「GANTO ゼミ」につながる自らの興味関心に基じた探究課題を設定するために必要な情報を収集し、整理・分析する。

地域(空知・北海道)や事業所が意識している課題を、地域住民である高校生としての目線で地域の事業所と協働し、設定する。さらに、その課題解決に向けての検討を、グループで行うとともに、検討結果を事業所や地域への提言という形でアウトプットする。加えてその成果を報告する。

2 年次に行った「GANTO ゼミ」での知見および地域(空知・北海道)を飛び出し幅広い他者との関わりにおいて得られた知見を踏まえ、自己のあり方生き方を考えることを通し自らの進路に直結した探究課題を設定し、個人による調査・研究・発表を、文献および質的・量的調査に基づき行う。

- ・「産炭地域」「ウポポイ」「先端農業に関わる」フィールドワーク、地域との連携
- ・JA 岩見沢・市内および隣接地域の専門家との連携
- ・探究研修(国内)

- ・地域の事業所と連携した「GANTO ゼミⅠ～Ⅳ」の実施
- ・岩見沢市役所・空知教育局・地域各事業所・GANTO ゼミ実施連携協議会・大学教員との連携
- ・探究研修(国外)

- ・生徒自らの進路に直結した「GANTO PRIDREⅠ・Ⅱ」の実施
- ・コンソーシアムや岩東同窓会「大地会」大学教員との連携

「掘り起こす潜在能力」

1. 高い志をもって主体的に課題を発見、設定し創造的に思考・表現して解決を図っていく力
2. 価値観の異なる他者とも積極的にコミュニケーションを図り、中心となって協働を進める力
3. 心身のしなやかさとたくましさをもとに自らを律し、多様な文化を理解しながら社会に貢献しようとする意欲

- 「総合的な探究の時間」に関わる評価
- ・ポートフォリオによる自己評価
 - ・GANTO ゼミⅢ(報告)・Ⅳ(発表)に対する他者評価
 - ・卒業後の活躍における追跡調査
 - ・地域有識者によるカリキュラム評価

8 「GANTO BASIS」「GANTO PROGRESS」「GANTO PRAIDE」年間計画

月	日	曜	1学年「GANTO BASIS」		2学年「GANTO PROGRESS」		3学年「GANTO PRIDE」	
			校時	内容	校時	内容	校時	内容
4	11	火	5～6	コミュニケーションスキルトレーニング				
	13	木	7	ウボボイの振替授業4/27①	7	ガイダンス（1年間の流れの説明）	7	GANTO PRIDE I
	17	月					7	GANTO PRIDE I
	20	木	7	探究基礎（ウボボイ事前学習）	6.7	コミュニケーションスキルトレーニング	7	GANTO PRIDE I
	24	月	7				7	GANTO PRIDE I
27	木	1～6	地域巡検（ウボボイ）	6.7	GANTOゼミブレ1（特別講義）	7	GANTO PRIDE I	
5	1	月	7		7		7	GANTO PRIDE I
	8	月	7		7		7	GANTO PRIDE I
	11	木	7	ウボボイの振替授業4/27LHR	7	GANTOゼミブレ2	7	GANTO PRIDE I
	15	月	7		7		7	GANTO PRIDE I
	18	木	7	探究基礎（ウボボイ事後学習）	7	GANTOゼミブレ2	7	GANTO PRIDE I
	22	月	7		7		7	GANTO PRIDE I
	25	木	7	ウボボイの振替授業4/27②	7	GANTOゼミブレ2	7	GANTO PRIDE I
	29	月	7		7		7	GANTO PRIDE I
6	1	木	7	ウボボイの振替授業4/27③	7	コミュニケーションスキルトレーニング振替授業4/20木⑤	7	GANTO PRIDE I
	12	月	7		7		7	GANTO PRIDE I
	15	木	7	JA農業体験の振替授業LHR	1～7	GANTOゼミI（調査）	7	GANTO PRIDE I
	19	月	7		7		7	GANTO PRIDE I
	22	木	7	ウボボイの振替授業4/27④	7	GANTOゼミII（探究①）	7	GANTO PRIDE I
	26	月	7		7		7	GANTO PRIDE I
	29	木	7	ウボボイの振替授業4/27⑤	7	GANTOゼミII（探究②）	7	GANTO PRIDE I
7	3	月	7		7		7	GANTO PRIDE I
	13	木	7	JA農業体験の振替授業9月中旬木①	6.7	GANTOゼミII（探究③）	7	GANTO PRIDE I
	20	木	7	三年生探究発表会見学	6.7	GANTOゼミII（探究④）	5～7	GANTO PRIDE I（探究発表会）
8	21	月	7		7		7	GANTO PRIDE II
	28	月	7		7		7	GANTO PRIDE II
	31	木	7	農業巡検事前学習	6.7	GANTOゼミII（探究⑤）	7	GANTO PRIDE II
9	4	月	7		7		7	GANTO PRIDE II
	11	月	7		7		7	GANTO PRIDE II
	14	木	1～6	フィールドワーク（スマート農業）未定	4～7	GANTOゼミIII（発表①）	7	GANTO PRIDE II
	25	月	7		7		7	GANTO PRIDE II
	21	木	7	農業研修事後学習、三笠ジオパーク事前学習	7	GANTOゼミIII（発表②）	7	GANTO PRIDE II
28	木	7	2年生のボーステーション見学	5～7	GANTOゼミIII（発表③）	7	GANTO PRIDE II	
10	5	木	1～6	フィールドワーク（三笠ジオパーク）	7	GANTOゼミIV（振り返り）		
	12	木	7	三笠ジオパーク事後学習	7	GANTOゼミI（調査）の振替授業6/15木①		
	19	木	7	GANTO BASIS「課題探究」	7	見学旅行2年振替休業		
	26	木	6	GANTO BASIS「課題探究」	7	GANTOゼミI（調査）の振替授業6/15木②		
11	2	木	7	GANTO BASIS「課題探究」	7	進路活動		
	9	木	7	三笠ジオパークの振替授業10/6LHR	7	GANTOゼミI（調査）の振替授業6/15木③		
	13	月	7					
	30	木	7	GANTO BASIS「課題探究」	7	GANTOゼミI（調査）の振替授業6/15木④		
12	7	木	7	GANTO BASIS「1年の振り返り」	7	GANTOゼミI（調査）の振替授業6/15木⑤		
	14	木	7	JA農業体験の振替授業9月中旬木②	7	GANTOゼミII（探究③）の振替授業7/13木⑤		
	21	木	7	JA農業体験の振替授業9月中旬木③	7	GANTOゼミIII（発表①）の振替授業9/14木④		
1	18	木	6	JA農業体験の振替授業9月中旬木④	7	GANTOゼミIII（発表①）の振替授業9/14木⑤		
	25	木	6	JA農業体験の振替授業9月中旬木⑤	7	GANTOゼミIII（発表③）の振替授業9/28木⑤		
2	1	木	7	三笠ジオパークの振替授業10/5①	7	Critical Thinking①		
	8	木	7	三笠ジオパークの振替授業10/5②	7	Critical Thinking②		
	15	木	7	三笠ジオパークの振替授業10/5③	7	Critical Thinking③		
3	7	木	7	三笠ジオパークの振替授業10/5④	7	進路活動		
	14	木	7	三笠ジオパークの振替授業10/5⑤	7	進路活動		

令和5年度(2023年度)「GANTO ゼミ」

(ゼミの概要)

GANTO ゼミ I

【6月15日(木) 9:00~12:00】

探究課題の設定 ~生徒が事業所を訪問して地域の課題を設定します。

- ◆事業所の方々にインタビューをして、本校生徒が探究課題の原案を修正するヒントをいただきます。経験及び知見にもとづいた助言をしていただき、課題について解決までのプロセスで必要なことを話題にして頂ければと思います。

GANTO ゼミ II

探究課題の調査・研究 ~校内で、生徒がグループごとに調査・研究を進めます。~

- ◆ゼミ I 内で探究課題を作成し、生徒が学校においてグループごとに調査・研究を進め、その内容を事業所の方々に聞いていただく準備をします。

GANTO ゼミ III

【9月14日(木)13:00~15:00】

調査・研究成果の報告 ~生徒が事業所を訪問して、研究成果を報告します~

- ◆各グループごとに事業所を訪問し、テーマ研究の成果をプレゼンテーションします。その内容について評価をいただきます。

GANTO ゼミ IV

【9月28日(木)13:10~16:00】

調査・研究成果の発表 ~校内で、成果とこれまでの取り組みを発表します。~

「GANTO ゼミ」とは、総合的な探究の時間で行っている、一連の探究的な学習のことを指しています。1学年での探究的な学びの基礎を踏まえ、2学年では各自で地域の探究課題を設定し、設定した探究課題に関連する岩見沢市内の各事業所を訪問・情報収集を行い、探究課題の解決に向けて調査・研究を行います。本図は2学年の取組の概要です。

調査・研究した内容は、各事業所で発表し、その後、校内で全体発表会を行っています。本取組を通じて、生徒は地域の課題を発見するとともに、その解決に向けて仮説を立てて検証する、といった探究のサイクルを学んでいます。

次のページからは、「GANTO ゼミ」で生徒が探究する際に使用しているワークシート等のテンプレートを掲載します。

【生徒が探究活動のまとめ、発表を行う際のテンプレート】

表題

キャッチコピーは不可。リサーチクエスチョン・仮説とリンクしているとよい

1. はじめに

事業所の方と話して、なぜこのテーマを研究にしたかを書く。更に研究のあらすじを簡潔に記載してください。

3. 先行研究

自分がしようとしている研究の分野において、過去にどのような研究が行われているか、調べて記載する。先行研究を参考に新たな課題を見つけて独自の研究活動にするためです。

2. 現状と課題

研究テーマに沿った、現在の状況・課題を客観的なデータを用いて分析する。
表やグラフなど見やすくするとおよい

4. リサーチクエスチョン・仮説

研究を行う際に立てられる疑問や課題や問いのことです。これはのテーマと考えても良いものです。「壮大すぎず」「具体的」に定め「言葉の定義」を明確に書いてください。

5. 研究方法

明らかにしたい事柄や、研究に必要なデータの種類、対象の広さなどをもとに、どのような手法で進めるのか記入する

6. 研究の成果・分析

- ・文献調査の場合、判明した問題点や解決策を、自分の仮説とや最初に考えた解決策と比較する。
- ・取材の場合、判明した問題点や解決策を、自分の仮説とや最初に考えた解決策と比較する。
- ・アンケート集計などから、分かったことや分からなかったことを整理する。どうしてその結果になったのか、原因を予想する。

いずれにしろ図やグラフ表などを用いてわかりやすく分析結果が理解できるようにする。

7. 考察

結論が、研究の成果・分析結果から導き出せる内容が考察です。飛躍し過ぎないようにしてください。推測を書いてもいいですが、推測を分かるようにしてください。活動を伝えるという視点ではなく、結論やメッセージを分かりやすく伝える。

8. まとめ

研究を通して感じたことや、新たな課題や問いを書いてください。

9. 参考文献

別紙参照

滝川市の人口減少を食い止める

2年 〇組 〇 〇 〇 〇



1. はじめに

現在の日本全体の問題として、少子高齢化があげられる。特に少子化は深刻な問題であり、人口減少にも影響を与えるため、地方の過疎化も今後進んでいくだろう。滝川市でも、年々人口減少が進んでいる。滝川市の人口減少を食い止めるため、少子化・移住促進の2つの面からその方法を研究した。

2. 現状と課題

現在、滝川市の合計特殊出生率は全国平均の1.43よりも高い1.50だが、出生数よりも死亡数の多い自然減となっている。また、転出者が転入者を上回る社会減となっている。

	H26	H27	H28	H29	H30
出生	270	288	260	254	234
死亡	559	522	543	566	599

図1 滝川市の出生数と死亡数(年度別)

滝川市では移住促進にあまり積極的ではなく、滝川市の紹介ムービーの掲載と住宅や土地の情報を提供するサービスしか行っていない。人口減少が問題視されている中、滝川市の人口は平成30年度には4万人を切り、今後も減少していくことが予想される。

6. 研究の成果・分析

1. 合計特殊出生率が高い市町村として、先行研究にあげた岡山県京鹿野のほか、市内の上位である奥尻町(1.78)、えりも町(1.75)、別海町(1.74)と滝川市の子育て支援制度を比較した。

	滝川市	奥尻町	京鹿野	えりも町	別海町
未就学児童保育施設	0	0			0
妊婦への課金など	0	0			0
出生一時金(一子一)	—	10万	3万	3万	3万
保育費助成(長短含む)	未就学児	高校卒業まで	(11歳未満)	(5歳未満)	小学生未満
妊娠・出産・子育ての相談窓口	0	0	0	0	0
幼児教育・保育の無償化	0	0	0	0	母子生活の悩み
一時保育	0	0			
子育て支援センターでの出し物など	1回	—	—	2回	—
子育てクラブ・児童館	0	0		0	0
ファミリーサポートセンター	0			0	0
こども発達支援センター	0		0	0	0
高等学校就学支援金支給		0			
ひとり親への支給		0			
未就学児童保育		0			
ベビー用品の貸し出し		0			
教育支援センター		0			
出生お祝い金		0			

図2 5市町村の子育て支援制度の比較

7. 考察

- 合計特殊出生率の差に、子育て支援制度の違いはあまり関係がないことがわかった。
- 人口減少によって地方の過疎化が進むなか、移住促進をすることで、地域が持続・活性化し、住み続けられる街につながっていくだろう。

8. まとめ

この研究を通し、滝川市の人口減少を食い止めるための一つの方法として、移住促進に積極的に取り組む必要があると感じた。自然の多さや生活のしやすさなどの魅力を道外に発信したり、移住イベントへの参加など、滝川市に興味を持ってもらうための取り組みをしていくことが大切だと感じた。

3. 先行研究

合計特殊出生率が高い市町村として有名なのが岡山県京鹿野町であり、令和元年の出生率は「2.88」を達成した。高等学校就学支援金支給やベビー用品の貸し出しなどの手厚い子育て支援策が実を結んだ。

4. リサーチクエッション・仮説

- 滝川市と「合計特殊出生率が高い市町村」の出生・育児に関する制度を比較すれば、滝川市に足りない制度を知ることができるのではないかな。
- 移住促進に積極的に取り組んでいる市町村と滝川市の制度を比較して、どの制度が魅力的か考察することで、滝川市に必要な移住促進の取り組みがわかるのではないかな。

5. 研究方法

- 「合計特殊出生率が高い市町村」を調べ、どのような子育て支援の制度があるのかを表にまとめ、現在の滝川市との比較をする。
- 移住促進に積極的な市町村として北海道滝川市を取り上げ、「滝川市移住定住センター」に問い合わせをし、移住者増加に魅力的な取り組みについて考察をする。

2. 「滝川市移住定住サポートセンター」の取り組み

①オンライン個別移住相談(令和2年度から開始)

- 令和2年度は3件の相談
- オンライン以外の相談(電話・メールなど)も増加しており、令和元年度が30件、令和2年度は48件と1.5倍以上になっている。

②滝川市に移住された方が多く利用した取り組み

- サポートセンターでは、電話、メール、オンラインでの相談対応や、移住希望者への移住体験・市内案内ツアー、職業紹介や空き家紹介のほか、百穂園等への移住イベントへの出席も行っている。
- 本州からの移住者は、移住イベントで滝川市に興味を持ち、その後移住体験や市内案内ツアーに参加して移住を決断する方が多いという。

③滝川市の移住実績(サポートセンター設置後)

	H28	H29	H30	R1	R2
件数	10	18	6	22	30
人数	30	40	14	55	58

計86件のうちサポートセンターと関わりがあったのは49件である。

9. 参考文献、協力者等

- 調査協力: 滝川市移住定住サポートセンター 竹内直穂さん
 滝川市移住定住サポートセンターHP (<https://www.city.takikawa.hokkaido.jp/>)
 滝川市HP (<https://www.city.takikawa.hokkaido.jp/>)
 赤穂町HP (<https://www.town.akaho.hokkaido.jp/>)
 奥尻町HP (<https://www.town.okaeri.hokkaido.jp/>)
 えりも町HP (<https://www.town.erimo.hokkaido.jp/>)
 別海町HP (<https://www.town.betsu.hokkaido.jp/>)
 厚生労働省 統計表 市町村別合計特殊出生率・標準化率に比 (<https://www.e-stat.go.jp/>)

【探究活動の進め方について説明する際に使用している資料】

岩見沢東高等学校 総合探究 研究の5つの型と進め方

	取材調査型	アンケート調査型	文献調査型	制作型	実験型
研究の段階	<ul style="list-style-type: none"> 外部機関へ問い合わせることで疑問を解決する研究。問い合わせ方法は問わない。親戚や友人の家へへの調査も含む。 取材で得られた情報をもとに、テーマに取り上げた事柄の真の筋道や解決策を探る。 ※取材で得られた情報を紹介するだけでは、研究にはならない。 	<ul style="list-style-type: none"> アンケート調査（最低でも1クラス）を実施する研究。 ※集計結果を分析し、そこから事実を明らかにする。 ※集計するだけ、集計結果を言葉にするだけでは研究にならない。結果の分析と考察を行うこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 論文や書籍、統計資料の調査を主とする研究。信頼できる信頼の公式 HP は参考文献として認められる。 ※複数の信頼できる情報を比較し、考察して初めて研究となる。 ※Wikipedia や SNS の記事は、参考文献として認められないので注意。 ※自分の欲しい意見だけを採ってはいけない。 	<ul style="list-style-type: none"> 製品、教材、本などを制作する。また課程で、テーマと関わる分野の課題や、表現技法を研究する。 制作物の評価・検証まで行うことが望ましい。 ※自己満足の制作にならないこと。 ※何らかの問題の解決を目的とした制作活動であり、目標達成の方法・技法を研究・検証する課程が研究。 	<ul style="list-style-type: none"> 科学的な実験を行う。 ※再現性のある実験であること。 ※実験の詳細を記録すること。 ※実験の内容を説明する言葉は、全て明確に定義され、決して誤解を生じないこと。 ※実験データの分析は、事実のみを根拠に行うこと。
I 課題 (テーマ設定)	<ul style="list-style-type: none"> 事業所の方の話を聞いて、身近にある問題から岩見沢全体にある様々な問題の中から、「もっと詳しく知りたい」「自分にも少しだけ改善に貢献できるかもしれない」と思えるテーマを見つける。 既に公表されている内容をコピーしても研究にならない。小さくても、「初めて明らかにすること」「新しい分析」を含む活動であること。 例)「岩見沢市の人口減少と高齢化率について」というテーマでは、おそらく岩見沢市の発表したデータをコピーしただけで終わってしまう。「岩見沢市と小樽市の人口減少と高齢化率の比較」であれば、岩見沢と小樽を比較していることが新しいので立派な研究となる。 テーマは、「壮大すぎず」「具体的」に定め、「言葉の定義」を明確にすること。 例)「岩見沢の人が安全に暮らせるためにできること」は除外。対象が広すぎず、「安全に暮らす」とはどういうことを指すのかが分からない。定義できないテーマは科学できない。 研究の方向性が見いだせない場合は、「テーマの範囲を絞る」ことで、いつか研究可能なテーマにたどり着くことができる。 上の例であれば、「岩見沢の郊外に暮らす高齢者が、自動車を運転しなくても暮らせるようにするために必要な行政サービスを考える」とすれば、探究のテーマとして成立する。 ※キャッチコピーは NG! テーマを見て、何に関する研究なのかが分からなければいけない。 ※テーマは途中で変わって当たり前。常に、興味先端が研究テーマとなる。 				
II 方法 (研究計画)	<ul style="list-style-type: none"> 明らかにしたい事柄や、研究に必要なデータの種類、対象の広さなどをもとに、研究の手法を決定する。 取材やアンケートの対象、比較対象とする文献や資料を決定する。 仮説(これが原因だろう)・リサーチアクション(これについて知りたい)を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 制作の目的を明確に設定する。 参考となる事例を調査する(模倣作にならないよう注意が必要) 	<ul style="list-style-type: none"> 実験の目標を明確に設定する。(どんなデータが欲しいのか) 最適な手法を検討する。 		
III 行動 (何をやったのか)	<ul style="list-style-type: none"> 外部機関への電話、電子メール、FAX などによる取材を行う。 HP を見ればわかることを質問しないこと。 質問の意図を正しく伝えられるよう、話す内容を事前に整理する。 取材を断られてもめげない。 	<ul style="list-style-type: none"> アンケートの目的を明確に設定する。 アンケートの結果をどう分析し、そこから何を明らかにしたいのかをよく考えて項目を決定する。 決して「取っておしまい」のアンケートにならないように。 アンケート調査を実施し集計する。 	<ul style="list-style-type: none"> 複数の信頼できる文献を読む CNN などの検索サイトを利用して、最新の研究成果が発表されていないかどうかを調べる。 「〇〇白書」などの統計データに、関連するものがないか調べる 	<ul style="list-style-type: none"> 目的を達成させるために求められる条件を整理し、それらを満たす物を作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 実験を行いデータを取る。 分析するために十分なデータ量を集めること。 再現可能な実験であること。 全ての実験結果を記録する。
IV 分析 (何が分かったか)	<ul style="list-style-type: none"> 取材結果から判明した問題点や解決策を、自分の仮説とや最初考えた解決策と比較する。 必要に応じて、追加の取材や、他の機関への取材を行う。(問題の本質を追求する。) 	<ul style="list-style-type: none"> アンケートの集計結果から分かったこと、分らなかったことを整理する。 ※どうしてその結果になったのか、原因を予想する。 	<ul style="list-style-type: none"> 文献調査から得られた情報と、テーマに取り上げた課題(現状)を比較する。 自分のテーマや、日常で感じていた疑問は、他の地域や国でどのように研究されていたのかを整理する。 	<ul style="list-style-type: none"> 仕上がった制作物を実際に見て(使って)もらい、意見やアドバイスをもらう。 自分の狙いと実際に見た人の感じた内容を比較し修正点を検討する。 修正が必要な理由をまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 実験結果を整理し分析する。 平均値だけでなく、分布や分散など、数学や情報で学んだ知識を活用する。
V 考察 (何が言えるのか)	<ul style="list-style-type: none"> テーマに選んだ課題を解決するために自分たちにもできる行動や解決策を、根拠を明確にして提案する。 今後予想される困難や、その予防策の実践例をまとめる。 他の地域と比較して、岩見沢の抱える重大な問題や、反対に気持ちにくい強みなどを明らかにする。 新たに湧いた疑問や、答えにたどり着けなかった事柄について、どのような追加研究が必要かを述べる。 可能であれば、追加調査を行う。(違う型の追加研究を行い、複合型研究とすれば、研究の価値が飛躍的に高まる。) 				
				<ul style="list-style-type: none"> 修正案をつくる。 制作を通して感じたこと(目標を達成するために何を考えなければならなかったのか、など)をまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 分析結果から分かったこと、分らなかったことをまとめる。

【探究活動のルーブリック】

探究活動を行う際は、生徒にルーブリックを示し、探究活動の見通しが持てるようにしています。

大項目	小項目	A	B	C
研究 計画書	内容	緻密な研究計画を立て、研究目的や研究方法も具体的で的を射ている。	計画書に記述すべき内容がすべて網羅されている。	研究計画書に記述すべき内容が不足しており、不十分である。
	取組状況	強い好奇心で取り組み、研究テーマを深く探究しようとする意識が広がっている。	班員と協働しながら計画書を作成することができた。	班員と協働できず、探究する意欲に欠ける。
ポスター	テーマと仮説	研究の目的や仮説が先行研究等を踏まえたものとなっており、研究の意義が理解できる。	研究目的や仮説が述べられている。	研究目的や仮説が述べられていない。
	研究方法	研究方法（アンケートや調査方法）が研究目的に沿ったものであり、適切なデータが十分な量で得られている。	研究目的におおむね沿った研究方法が述べられている。	研究目的を達成する研究方法として不適切、または、十分とは言えない。
	成果・分析	豊富な資料やデータをもとに優れた分析がなされている。また、図、表、グラフ等が分かりやすく作成・配置されている。	資料、データ、図や表、グラフ等がおおむね適切に作成されている。	資料やデータが不足している、または、図、表、グラフ等が適切に作成されていない。
	考察・まとめ	研究結果を踏まえた考察が述べられており、今後の研究の展望も示されている。	研究結果を踏まえた考察が述べられている。	考察が述べられていないか、考察として不適切である。
	取組状況	強い好奇心で取り組み、研究テーマを深く探究しようとする意識が広がっている。	班員と協働しながらポスターを作成することができた。	班員と協働しながらポスターを作成することができず、研究テーマを探究する意欲に欠ける。
	発表	聴衆を意識した説明である。原稿に頼らず自分の言葉で研究内容を説明し、言葉遣い、声の大きさ、話す速度は適切であり、分かりやすい。	原稿を見ることもあるが、言葉遣い、声の大きさ、話す速度についてはおおむね適切である。	終始原稿を見ながら発表し、言葉遣い、声の大きさ、話す速度が適切ではない。
	質疑応答	質問者の質問に対して、研究した内容に基づいた適切な応答ができています。	質問正しく理解しているが、回答には不十分な点も多く余分な点がある。	質問内容を把握できないまま応答しているため、質問と答えとが対応していない。
その他	参考文献	参考文献が正しく表記されているか。		
	提出期限	ポスターの提出期限を守っているか。		

【生徒が探究活動を行う際に、見通しを持てるよう、研究を整理するための計画書のテンプレート】

岩見沢東高等学校 GANTO セミ
課題研究ノート (様式A)

研究計画書

班

班員氏名

1. 研究テーマ (研究の目標)

2. 現状と課題

3. 先行研究を踏まえた研究の方向性

4. 仮説 (リサーチクエッション)

5. 研究方法

研究計画書

班

班員氏名

1. 研究テーマ (研究の目標)

ポイント

- ・誰が見ても、一発で何の研究か分かるかどうか。
- ・キャッチコピーのようなものはダメ。 ・長すぎてもダメ。

2. 現状と課題

ポイント

- ・何を対象とした調査で、何を調べたのか、誤解なく伝わるか。
- ・研究対象が明確になっていて、具体性のある内容になっているか。
(要するにちゃんと調べて書いているか)
- ・誰でも、なんとなく想像のつくことであってもちゃんと書く。

3. 先行研究を踏まえた研究の方向性

ポイント

- ・先行研究は、参考になる書籍や、同様の取り組みの事例が見つかっていればOK。
- ・「研究の方向性」は「研究方法」と区別しにくいのですが、現状と先行研究を踏まえて、自分は「何を目標として研究するのか」が書かれていれば大丈夫です。こんな現状を解決したい、こんな提案をしたい、という目標であればGOOD!

4. 仮説 (リサーチクエッション)

ポイント

結構書きにくい部分です。「仮説」は、研究の柱になる部分ではありますが、今の段階では難しく考えすぎないでください。「○○の原因は××にあるのではないか」「○○の調査をすれば、△△が分かるはず」「○○ができれば、□□が改善されるはず」など、なんとなく思っていることをいくつか書いてください。最初はそれで充分です。研究が進んで増えてもOKです。

5. 研究方法

ポイント

- ・「どんなアンケートをとる」「何処にどんな問合せをする」など、具体的な活動内容
- ・得られた情報をどう処理して、どんな考察をしたいと考えているか、が書いてあれば尚よし。

【探究活動のまとめを行えるよう、探究活動の過程を記録するためのテンプレート】

研究計画書作成：14日(木)⑤⑥⑦+21日(木)⑦

提出日：21日(木)⑦校時

課題研究ノート(様式B) 「現状の調査記録」

調査日時	記 録

Gリーダー(原本) → 担当教員(コピーを2部かける) → Gリーダー(原本を返す)
※原本は22日(金)の終業日中に返してください。 藤井先生(コピー1部)

【その他】

生徒が探究課題を設定する際は、本校が所在する岩見沢市の総合戦略と関連付けるようにしています。こうすることにより、生徒が自分の暮らす地域にはどのような魅力や課題があり、自分たちの力で解決できることにはどのようなことがあるのかを、自分事として捉え、探究活動を行うことを期待しています。また、「GANTOゼミ」では岩見沢市内の各事業所を訪問するため、地域の社会人と同じ目線に立って調査研究することができるといった効果も期待されます。

岩見沢市の戦略



【「GANTO ゼミ」ポスターセッションのプログラム】

令和5年度
GANTOゼミⅣ
ポスターセッション



令和5年9月28日（木）
13：10～16：00

年 組 番 氏名

発表会場 : 体育館

時 程 : 1年生 → 7校時
2年生 → 5, 6, 7校時 (7校時撤収作業含む)

活動内容 : 2年生の生徒がGANTOゼミで取り組んだ成果を、ポスターを用いて発表する。
1, 2年生は、興味のあるテーマを見つけ、発表を聞き、感想をまとめる。
(2年生は最初に聞く発表のみ指定するが、2件目以降どの発表を聞くかは自由。)
移動の指示等はマイクを使って行うので、指示に従うこと。

【当日の動き】

時刻	
12:50	<ul style="list-style-type: none"> 2年生の探究係は1F電気室(事務室向かい)からパネル8枚を体育館に搬入 2年生は、各班の発表場所に移動。ポスターを指定場所に貼る。 ※ ポスターを貼ったら指示があるまで発表練習
13:20	2年生は、学年集会の時と同じように整列
13:30	開会式(発表とそれを聞く時の注意事項など)
13:40	前半発表者(奇数班、発表開始) 偶数班は奇数班の発表を聞く 発表8分(質疑応答含む)、 移動・休憩2分の繰り返し(5回発表)
14:40	奇数班 発表終了
~50	休憩(10分間)
14:50	後半発表者(偶数班、発表開始) 奇数班は偶数班の発表を聞く 発表8分(質疑応答含む)、 移動・休憩2分の繰り返し(5回発表)
15:30	偶数班の発表終了 1・2年生ステージに向かって整列
15:35	閉会式 開会式と同様に整列 ・外部評価者の方より ・学年主任より (終了後、1年生は教室へ移動)
15:45	(1年生退場後)片付け ポスターはステージ上を集める 探究係はパネルを1F電気室に戻す 教室へ戻る

【前半】

2年生が最初に発表を聞く組み合わせ

発表側	1班— 34班	聞く側
		3班— 32班
		5班— 30班
		7班— 28班
		9班— 26班
		11班— 24班
		13班— 22班
		15班— 20班
		17班— 18班
		19班— 16班
		21班— 14班
		23班— 12班
		25班— 10班
		27班— 8班
		29班— 6班
		31班— 4班
		33班— 2班
		35班— 教員

【後半】

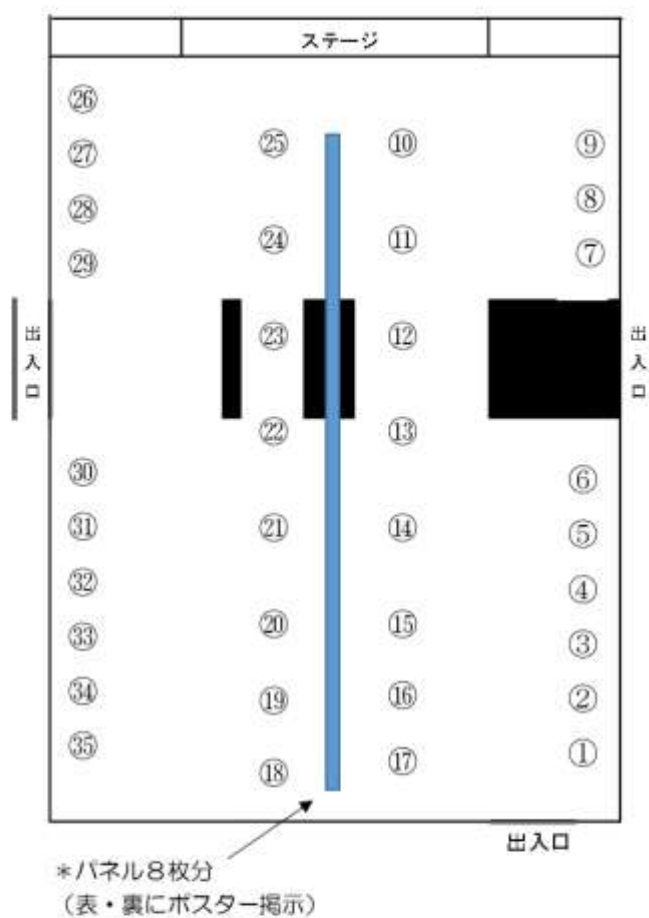
2年生が最初に発表を聞く組み合わせ

発表側	2班— 35班と33班	聞く側
		4班— 31班
		6班— 29班
		8班— 27班
		10班— 25班
		12班— 23班
		14班— 21班
		16班— 19班
		18班— 17班
		20班— 15班
		22班— 13班
		24班— 11班
		26班— 9班
		28班— 7班
		30班— 5班
		32班— 3班
		34班— 1班

- 発表を聞いたら、発表と発表の間の2分間で、記録用紙に記入をする。
- 良い発表には、Good job シールや付箋紙に感想や良かった点を書いてポスター横の紙に貼り付ける。

会場図

【体育館】 ※ 研究テーマ一覧に、ポスターの掲示される場所の番号が示してある。



2023 GANTO セミ 研究テーマ一覧

班	研究テーマ
1	インバウンドに如何に外貨を落とさせるか
2	岩見沢の雪の有効活用
3	防災から減災へ
4	二次災害への対策について
5	安心安全な生活環境の確保
6	米の正しい知識を身につけ、健康を守ろう
7	障害者雇用調べてみた！
8	病院と地域医療のあり方
9	ケアマネージャーが地域に与える重要性
10	農家と所得を増やそう大作戦！！
11	ロボット技術やICT 使用による農業の生産性の変化
12	キタノカオリ PR 大作戦
13	天狗まんじゅうの知名度をさらに上げる
14	食を中心としたまちづくり
15	岩見沢の地域資源と高校生ならではの視点から、イベントを企画・提案する
16	地域資源を活用して人を呼ぶ
17	岩見沢市と各市町村の交流をスイーツを通じて深めたい！
18	町おこしのための土台作り
19	子育て中に不安を抱えている親に寄り添い、岩見沢の子育てを充実させるには
20	教員の数と教育の質の関係
21	本当の幸せは食べることから～中高生の食育～
22	生涯学習と地域の繋がり
23	スポーツの振興
24	子供たちが気軽に音楽に触れられる町づくり
25	岩見沢の芸術文化振興における課題
26	スポーツでまちづくり
27	岩見沢の子供を増やすためには
28	岩見沢の道路
29	タクシーの学生割引について
30	通学の利便性を向上させるために
31	下水を活用した汚泥肥料と岩見沢市の関係性
32	ポイ捨て対策法
33	岩見沢の二酸化炭素削減活動
34	循環型社会の形成への取り組み
35	ラジオと市政の関わりについて

GANTO ゼミの様子



10 海外探究研修

本校では、実際に現地へ行き、具体的な出来事に触れることで、抽象度の高い課題に実践的に向き合うことを重視しています。インプットとアウトプットを繰り返すことで、思考力を鍛え、考え続ける基礎体力を身に付けられるようにしています。また、地域で学んだことを踏まえて道外や国外の大学生等と交流し、より高いレベルで探究活動を行えるようにしています。その一環として希望生徒を募り、1学年では台湾に、2学年ではオーストラリアで海外探究研修を行っています。

(1) 「台湾研修(1 学年)」

令和5年度 1 学年海外探究研修 (台湾) について

- 1 日程 令和6年3月16日(土)～19日(火) 3泊4日
- 2 参加生徒 1年生 7名
- 3 引率教員 学年主任
- 4 研修場所 台湾(台北市・新竹市)
- 5 現地校 東呉大学(台北市・私立・語学レベル基礎)
- 6 研修内容 自らが立てた探究テーマにもとづき、現地で調査・研究を行う。
- 7 旅行取扱業者 株式会社JTB北海道事業部(担当:織笠 真行氏)
- 8 行程表

日次	月日(曜)	地名	現地時間	交通機関	日程	食事
1	3/16 (土)	新千歳空港 桃園国際空港 台北	14:40 18:20 20:30~21:30 22:00	航空機CI131 専用車	国際線にて台北へ 着後、士林夜市へ 士林夜市散策 ホテル着	朝:— 昼:— 夕:機内
2	3/17 (日)	台北	9:00~16:00 16:30~17:30 17:30~18:30 19:00~20:00 21:00	専用車	B&S(現地学生交流)プログラム 当日の台湾側学生のみ MRT代、食事代、入場料、交通費は日本側生徒さんの負担です(現地払い) お土産店で買い物 夕食 台北101展望台にて夜景観賞 ホテル着	朝:○ 昼:—(自由食) 夕:○(台湾料理)
3	3/18 (月)	台北 新竹 台北	9:00~12:30 14:30~17:30 18:00~19:00 19:00~20:00 21:00	専用車	東呉大学訪問 校内見学(60分)・授業見学(60分)・学生と交流・学食ランチ(90分) TSMC(台湾製新館)訪問 サイエンスパーク全体の概況説明、映像視聴、見学 夕食 新竹夜景観賞 ホテル着	朝:○ 昼:—(学食) 夕:○
4	3/19 (火)	台北 桃園国際空港 新千歳空港	5:30 6:30 8:35 13:10	専用車 航空機CI130	ホテル発 桃園空港着 国際線にて新千歳空港へ 着後、解散	朝:○(BOX) 昼:機内 夕:—

大学のご案内

台北市

東呉大学
Soochow University



1900年中国蘇州で建てられた旧東呉大学は、1951年中国内戦の末廃校となりましたが、1954年再度台北で「私立東呉大学法学院」として創立した総合私立大学です。2つのキャンパスを持ち、司法試験や公認会計士試験で常にトップクラスに入り、日本語文学科は台湾私学最高峰で日系商社や銀行等へ多くの人材を送り出しています。



海外双溪キャンパス正門

令和5年度 台湾探究旅行の様子



(2) 「オーストラリア研修(2 学年)」

令和 5 年度 2 学年海外探究研修（オーストラリア）について

- 1 日 程 令和 6 年 3 月 1 6 日（土）～ 2 5 日（月） 1 0 日間
- 2 参加生徒 2 年生 7 名
- 3 引率教員 学年主任
- 4 研修場所 オーストラリア（南オーストラリア州アデレード市）
- 5 現地校 グレナンガ インターナショナル ハイスクール（アデレード市内）
- 6 研修内容 自らが立てた探究テーマにもとづき、現地で調査・研究を行う。
*現地校での昼休み及び放課後、ホームステイ先でのホストファミリーとの交流の間
で実施する。
- 7 旅行取扱業者 株式会社アイ エス エイ 札幌支店
- 8 行程表

日 付	時 間	旅 程
3/16(土)	午後～夜	新千歳空港→成田空港→ケアンズ空港 (機内泊)
3/17(日)	早朝 午後	ケアンズ空港到着 アデレード空港～現地校～ホストファミリーと対面、帰宅 (ホームステイ①)
3/18(月) ～22(金)	午前 終日 午後	ホストファミリーと共に登校 現地校で授業に参加 授業終了後、ホストファミリーと共に帰宅 (ホームステイ②～⑥)
3/23(土)	終日	ホストファミリーと休日を過ごす (ホームステイ⑦)
3/24(日)	早朝 午前～夜	ホストファミリーと登校～現地校～アデレード空港→ケアンズ空港 →成田空港～ホテル (ホテル宿泊)
3/25(月)	午前 午後	ホテル～成田空港 →新千歳空港



(HP 学校紹介) 南オーストラリア州立・共学 7～12 年生（中 1～高 3 生）アデレード市内のアカデミック校。（同市にある複数の大学とも連携）州の認可校として、約 65 ヶ国から留学生を受け入れている。

2 学年 海外探究研修（オーストラリア）の様子



11 One Night Dialogue 高大連携プログラム

本校は2022年度から、「三菱みらい育成財団」の「高等学校等が学校現場で実施する『心のエンジンを駆動させるプログラム』」に採択されています。心のエンジンを駆動させるために、本校生徒が本来持っている潜在能力（Caipability ケイパビリティ）を掘り起こし、生徒に自信を持たせることをねらいとして総合的な探究の時間を軸にした教育プログラムを実践しています。以下はその一例です。

One Night Dialogue 高大連携プログラム

1 目的

「三菱みらい育成財団」の支援を受けている大学・高校との連携による、高大連携プログラム「One Night Dialogue」（関西学院大学ハンズオン・ラーニングセンター主催）に参加することにより、創造的に思考・表現して課題解決を図っていく力を養う。

2 日時

令和6年2月2日（金）～5日（月）

3 場所

大森町内（島根県大田市）

4 内容

下記参照

5 その他

- ① 生徒は1学年課題探究の優秀グループで構成する。
メンバー 1年生5名
- ② 生徒の費用負担なし
- ③ 1学年生徒全員に還元することを目的として、探究活動状況をクラスルームにて公開する。

